

城東区における不登校対策の現状について

<p>スクールカウンセラー事業</p>	<p>【事業概要】 区内市立中学校に臨床心理士をスクールカウンセラーとして週1日配置（週1日6時間・年間35週）している。 また、一部の中学校において、週2日の配置とし、内1日は校区の小学校へ派遣している。</p> <p>【現状・課題】 現在6中学校下中3か所が2名、3か所が1名配置となっているが、令和3年度からすべての中学校下で2名配置となる予定。</p>
<p>こどもサポートネット事業</p>	<p>【事業概要】 学校園において、学校生活や家庭生活・家庭環境、経済的困窮等の課題を抱えた子ども及び子育て世帯を発見し、区役所と連携して保健福祉の支援制度や地域資源の適切な支援につなぎ、社会全体で総合的に支える仕組みとして運用している。</p> <p>【現状・課題】 区内6中学校、16小学校のすべてにおいて取り組んでいるが、事業開始初年度ということもあり、その活用レベルに差が生じている。今後は、積極的に取り組んでいる学校の実施効果等を共有することにより、区全体の活性化を図る必要がある。</p>
<p>JOTOふらっと教室</p>	<p>【事業概要】 不登校状態にある小・中学生の置かれている状況や態様に応じて、学習の支援や活動プログラムを提供するなど学習習慣の形成や基礎学力の向上及び再登校を含む社会的自立を支援している。</p> <p>【現状・課題】 現状、居場所として提供しているスペースが2か所（城東区子ども・子育てプラザ、トライ京橋駅前校）であり、また、利用時間も限られているため、利便性はもとより利用ニーズとのマッチング機能が脆弱である。</p>

城東区内市立小中学校における不登校対策について

※「区教育行政の推進に向けた各校の取組調査」より抜粋（令和2年9月当区において実施）

家庭、保護者と連携	<ul style="list-style-type: none">・担任や生活指導部による電話連絡、家庭訪問等・保護者との連携
教員間の連携、 情報共有	<ul style="list-style-type: none">・職員朝会や職員会議、生活指導部会の開催・職員会議（スクリーニング会議Ⅰ）や子どもサポート委員会（スクリーニング会議Ⅱ）の開催・担任、特別支援担当、養護教諭、担任外職員、SCやSSWなどが連携し、不登校児童を支援・人権課題検討委員会を実施し、不登校児童の把握と対応・小学校側で把握している新1年生（中学生）の情報の共有・長期欠席者確認シート及び児童生徒理解・教育支援シートの作成・活用
早期発見・ 情報収集	<ul style="list-style-type: none">・早期発見、早期解決に向けた保護者へのアプローチ。・休みの連続や登校渋りがみられた場合の家庭訪問、保護者との連携・担任による、児童、家庭への日常的な対話・いじめなど生活指導に関わるアンケートの実施・教育相談週間をはじめとする相談体制
人員の配置・体制	<ul style="list-style-type: none">・不登校児童担当教員の設置・生活指導支援員の活用
仕組みの活用・ 関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none">・「JOTOふらっと」などの適切な支援を行うための情報提供、SC（スクールカウンセラー）の活用・関係諸機関（こども相談センター、区役所等）との連携
登校支援、 居場所の確保	<ul style="list-style-type: none">・迎え、電話など登校支援・生活習慣から遅刻しがちな児童に対する登校支援・個々の状況に応じた段階的な登校支援（登校して担任と会ってから下校、午前中のみ登校、保健室で1時間程度過ごしてから教室へ向かう、等）・職員室や保健室などの別室への登校・居場所の確保（保健室・校長室・特別支援学級など）・児童理解の場の設定・仲間作りを意識した学校行事の実施
学習支援	<ul style="list-style-type: none">・双方向通信（teams）を活用した放課後学習・在宅ネット学習支援サービスとの連携・eboardなど無料の学習支援サポート、インターネット学習「すらら」などの紹介・連携